

安全・健康部会

I. 研究の概要

1. 研究課題

安全・健康について主体的に考え行動できる子を育成するための実践はどうあるべきか

2. 研究内容

[研究内容1]

～子どもたちの安全・危機管理、防災・減災教育、学校環境・環境整備はどうあるべきか～

①安全・危機管理

家庭や地域と連携し、児童生徒の安全を守る取組

②防災・減災教育

避難訓練の方法や特徴、地域との連携についての取組
日常的に災害について考え、対応について実践的に学ぶ取組

③教育環境の整備

学びやすく、生活しやすい環境の整備についての取組

[研究内容2]

～子どもたちの食育と健康、体力向上はどうあるべきか～

①食育と健康

給食指導・食物アレルギーの対応についての取組

②体力向上

体力向上のための取組

3. 研究方法

(1) 授業実践

① 各校での取組や現状分析を基本にして、実践を積み上げる。

(2) 研究協議会

- ① 研究協議会を行う中で、各校の実践発表を中心に交流を行う。
- ② 管内1ブロックで行う。全体で理論研修の後、2分科会をそれぞれ小グループに分ける。
- ③ 研究協議会の実施場所・方法等については部会だよりにて連絡する。

(3) 啓発・発信・連絡

- ① 部会 HP などを通じ、有益な情報を提供したり、各種連絡等を行ったりする。
- ② 研究協議会で話し合われた内容については、HP、各種刊行物・関係機関へのはたらきかけを通し広く発信していく。

II. 実践研究の経過と成果

1. 実践研究の経過

(1) 部会役員研修会による研究経過

- | | |
|------------|----------------------------------------------|
| 5月 8日 (月) | 第1回部会役員研修会
研究計画の概要の確認、研究協議会のもち方について |
| 7月 4日 (火) | 第1回課題部会事務局長研修会
研究協議会のもち方、研究の成果・課題のまとめについて |
| 8月 25日 (金) | 第2回部会役員研修会
研究計画の概要の確認、研究協議会のもち方について |
| 9月 5日 (火) | 石教研課題部会研究協議会 |
| 1月 25日 (木) | 第3回部会役員研修会
研究の成果・課題のまとめと次年度研究計画について |

(2) 部会役員研修会での研究成果

- ・提出レポートのテーマを確認し、部会員の興味や問題と感じている内容のキーワードについて検討した。
- ・現在の管内の学校環境や職場環境について協議し、今年度の学習会、特に分科会のもち方について検討した。
- ・レポートの提出本数やその内容の充実が部会協議を活発にするため、どのような方法をとればレポートを書きやすいか、提出が増えるかを検討した。
- ・ペーパーレス化を目指し、C4thを活用したレポートデータの収集・配信の方法を検討した。当日は、小グループごとにレポートを印刷し、配付することとした。
- ・研究内容・部会の反省について、Google Formsでの回答をお願いすることとした。



2. 課題部会研究協議会内での交流

(1) 課題部会研究協議会での交流内容

①全体会の様子

- ・研究主題・分科会の説明を行った。

②理論研修

- ・「江別市の防災・危機管理対策について防災教育のロールプレイ（クロス・ロード）」

③レポート交流の様子

- ・グループの人数と交流の時間（45分間）のバランスを考え、12の小グループに分け、1グループ10名程度のレポート交流とした。
- ・部会員の協力があり、多くのレポートの提出があった。レポート内容は多岐にわたるものとなり、様々な視点や取組から「子どもたちの安全・健康への意識を高める実践」について協議を深めることができた。
- ・レポートで報告された内容について、各校の現状や今後の改善に向けた取組方法、具体的なアイデア等が寄せられた。
- ・少人数グループで分科会を行ったため、自分の学校の現状を詳しく話すことができるとともに、意見交流をする時間を概ね確保することができ、話し合いの深まりが見られた。
- ・多面的・多角的な視点から、レポート内容1と2の部会員を小グループ内に配置して交流をした。それにより、違う立場でアドバイスを受けることができ、他校の情報を得ることができた。
- ・協議の方向を整理するために、今後もレポートの分析が必要である。また、それらを部会員に還元していくために、さらなる部会報の充実を図る必要がある。

○主なレポート内容[研究内容1] ・熱中症対策 ・新型コロナウイルス感染症・防災学習 等

[研究内容2] ・SDGsを考える・体力向上プランについて・食物アレルギー 等

④成果と課題

- ・今年度は66本のレポートが集まった。昨年度までの蓄積を踏まえ、様々な工夫が見られるレポートが多かった中、8月下旬に猛暑で午前授業とする学校対応が多かった今年の現状を踏まえ、「熱中症対策」のレポートが増えてきた。
- ・自然災害が多い中、部会員がどのように工夫して子どもの安全を守り、教育実践を進めてきたかがまとめられていて、レポート集として共有し交流できたことは大変意義深いものだったと考える。
- ・実践レポートを読むと、どれも今できることを最大限考えて実践している様子が見てわかる。子どもたちの安全管理は命の危険に直結する内容が多いことから、できることを話し合い、工夫して取り組む姿勢に共感することができる。部会内だけでなく、管内全体に発信し、連携していきたい
- ・昨今、注目されている教職員の働き方についての観点から、我々に過度な負担がかからないように心がけることも大切で、教職員一人一人に身体的・精神的なゆとりができるよう、スクールサポートスタッフ等の人材を増やすような職場環境の改善を願っている。

(2) 課題部会研究協議会での交流内容

討議の柱1

子どもたちの安全・危機管理、防災・減災教育、学校環境・環境整備はどうあるべきか

提言内容

○防災訓練・避難訓練について

- ・自然災害による被害を防ぐために、地域の特性を踏まえた学校施設や防災マニュアル等の整備、地域と連携した訓練の実施について報告された。
- ・集団下校訓練の保護者引渡しをどうするのか、特に児童数の多い学校では様々な対応が報告された。
- ・熱中症対策として、体育の実施判断や校外学習の実施判断等、管理職の指示を教職員がすぐに把握する体制などが報告された。

提言内容

防災対応については、学校環境はもとより、地域の災害リスクを踏まえ、市町村と連携した防災教室等の取組を行うことで、より防災への意識を高めることにつながる。

各学校において、熱中症対策について工夫をした授業や行事等の教育活動を実践交流することで、児童生徒の安全を確保したい。

討議の柱2

子どもたちの食育と健康、体力向上はどうあるべきか

○食育と健康について

- ・SDGsに関わる食育活動を行い、食品ロスや体への意識についての中学校の実践が報告された。特に、中学校の残食が多いという課題とどのように向き合っていくべきかが報告された。
- ・1学年に2回ずつ食育の授業を行なっている。担任との連携も大切にしていることが報告された。

○体力向上について

- ・子どもが意欲的、主体的に運動できるような取組、実践例について報告された。
- ・新体力テストやスポーツテストの結果から、瞬発力を高めるためのラダーやミニハードル、持久力の向上化を図るためのなわとび連続跳びを取り組ませている実践なども報告された。

各学校で、食育の実践交流が多く行われた。地域の特色を踏まえたものやどの学校でも実践できる内容も報告された。特にとうべつ学園で行われた「とべつランチ」は地場産食材を使った給食が紹介された。体力向上については、暑さで持続的な運動が制限されたり、中止する判断の学校も多かったりということが報告された。本州の学校に比べ、北海道は熱中症対策への意識が低いという指摘も報告されていた。

Ⅲ、実技・理論研修会の内容

1. 講演会の内容

江別市の防災・危機管理対策について防災教育のロールプレイ（クロス・ロード）

講師 樋渡 公平 氏（江別市総務部調整監付 主査 危機対策・防災担当） ※消防本部より出向

前段では「江別市における安全・危機管理」についてご講演いただいた。江別市における過去の災害をふまえ、どのような想定の下で取組を行っているのか、ハザードマップや避難経路の考え方といった具体的な防災に関する取組について、パワーポイントを使いながら説明していただいた。特に、洪水のハザードマップについては、石狩管内のどの市町村に勤務したとしても、勤務地の教職員が避難経路を把握する必要があると強く訴えていた。

後段では「クロスロードの概要」についてご講演いただいた。江別市内で小中学校へ実践している防災について主体的に考えるゲームである。その実際について具体的なカードを例のご説明いただき、いくつか部会員で意見交換を行った。



2. 講演会の成果

私たちは普段から避難訓練などを行ってはいるが、その前提となる避難所・もしくは避難経路について詳しく知っている方は少ないと思われる。今回、江別市を例に安全・危機管理の講演をいただくことで、今後の安全・健康を守る取組に貴重な示唆をいただくことができたと思う。

また、「クロスロード」という子どもも大人も対象に行うことができる実践の紹介をいただいたことで、安全・健康について主体的に考え行動できる子を育成するための実践はどうあるべきかという研究主題に対する一助とすることができたと思う。



Ⅳ、部会研究の成果と課題

1. 成果

- 講演の中で、「クロスロード」の説明と実践が行われたが、部会員との意見交流もあったため、部会員対象の事後アンケートでも好評だった。
- 避難訓練やお迎え型避難訓練の方法など、各校での実践を知ることができ大変参考になったという声が多かった。
- 対面で質問することにより、内容について深く知ることができたり、人とのつながりができたりする機会となった。研修会後にも C4th などでもデータを交流し合い、自校の実践に生かしたいという声もあった。

2. 課題

- 昨年度から HP をリニューアルし、部会だよりでお知らせしたが、まだ浸透していないと感じる。適宜、情報発信を行い、部会員がみんなとのつながりを大切にする意識を向上させなければならない。
- 駐車場の場所が急遽変更となり、部会員の皆さんへの連絡が行き届かないことがあった。駐車場の位置も含めて、次年度の会場を検討していきたい。
- 4年ぶりの対面開催ということで、スムーズに運営することができない場面があった。今回の対面開催での課題を整理して、次年度以降に生かしていきたい

（ 文責 岡部 咲希 ）